

こんなところに 市民寫真

1.富士山のように高く
教養を深め 視野の広い
市民となります

かぐや姫のイメージソングが誕生

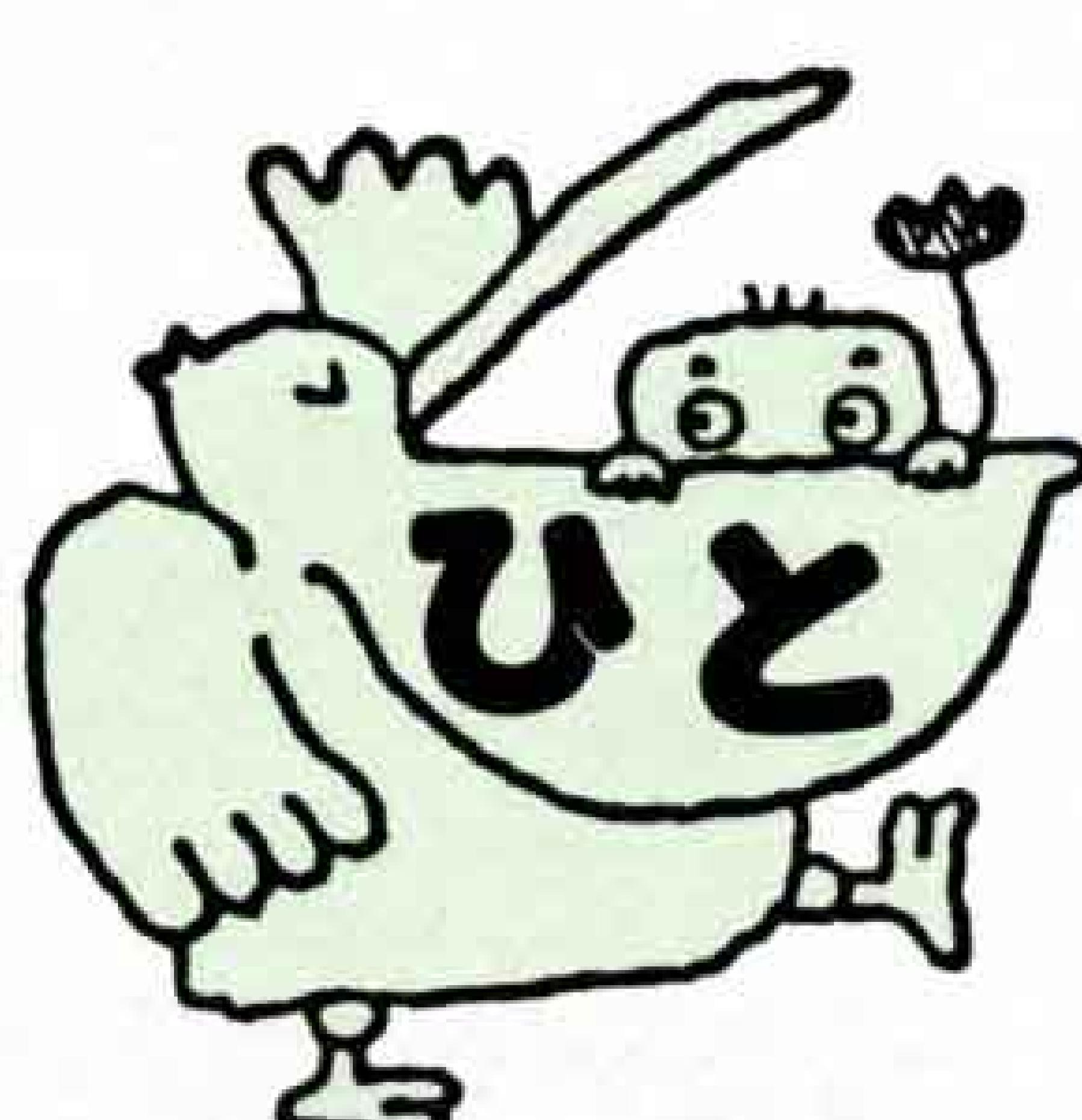


△小林雄治さん

♪光の中で あなたは 生まれ…♪

かぐや姫のもつ神秘性・ラブロマンス性をバラード風に仕上げたイメージソング「輝く日々の為に」という曲がつくられました。

作詞・作曲したのは、上横割にお住まいの小林雄治さん(39歳)。「人は恋をすると輝くといいますね。自分の心の中で輝く人=かぐや姫を表現してみました。また、かぐや姫をとおして、富士市民だけの富士山像をつくれれば、もっと市民として誇りをもてると思います。そんなお手伝いのできる曲になるのでは」と語ってくれました。



人 海岸の松は、次の世代との共有財産だと考える土屋さんは、松への思いやりは、子供のときから育てなければ——と、人づくりにも力を入れます。松遊び、松を植え、松林を清掃する小学生と一緒に草取りの方法から教えます。子供たちは松と触れ合いながら、学校で学ぶ知識とはまた違う生きるために必要な知識を身につけていきます。



△右から崇君、幸子さん、健君、忠さん、愛子さん

森本さんの家族は御主人の忠さん(四十七歳)、奥さんの幸子さん(四十歳)、長男の崇君(吉原小五年)、健君(同二年)の五人家族。

——いつ、どちらから
「三月に、名古屋市千種区から
転勤で」

——どんな街でしたか
「繁華街に近い住宅地で、地下鉄の駅もすぐそばにあるなど、生活するには便利な街でした」

——行つてみたいところは
「夏に富士登山に挑戦しようと思つています」

——ありがとうございました

愛子さん「学校の運動場が二倍ぐらい広くなつたのはうれしいけど、体育の時間がきついなあ」

浜 辺が消えて。

富士山と青い海。白い浜辺とどこまでも続く松林。昔の、田子浦海岸の姿です。今ではすっかりさま変わりして、十七メートルの防潮堤とテトラポットの山。変わらぬのは松林だけですが、これには土屋利治さんを会長とする、「田子浦海岸保安林を守る会」の大っきな力がありました。

松 が危ない。
「守る会」が発足したのは、昭和四十九年。大気汚染などで、松に枯れ枝が目立つ様になつたころです。海岸沿いに住む土屋さんは、本能的な不安を感じ運動を始めました。土屋さんの論法は単純明快。しかも、心にズシッと響く説得力があります。「高潮は防潮堤があるから、まあ大丈夫だろう。強い風は、松が防いでくれる。だから、しけの時にも安心して眠つていられる。大切な松を、地域の住民が守らなければ、一体だれが守るんだ。」

現在、「守る会」の会員は、田子浦地区七町内の千九百世帯にもふえ、春と秋には枝打ちや雑草刈り取りの共同作業に汗を流しています。

人 づくりと松づくり。
海岸の松は、次の世代との共有財産だと考える土屋さんは、「松への思いやりは、子供のときから育てなければ——と、人づくりにも力を入れます。松遊び、松を植え、松林を清掃する小中学生と一緒に草取りの方法から教えます。子供たちは松と触れ合いながら、学校で学ぶ知識とはまた違う生きるために必要な知識を身につけていきます。

活気のある街ですが、においは気になりますね。

|| 初めまして! 市民一年生です ||

——今まで、どんな街を
「東京・名古屋・静岡をぐるぐると。結婚してからでも五回ぐらい転勤しています」

——富士の一印象は

「新富士駅を降りたとき、煙突の数と煙にまず驚きました。活気を感じた反面、においも気になります」

森本 忠さん一家(昭和通り)
「住めば都」で、自分の街がどんな街かはなかなか気がつかないもの。そこで今回から転入者の皆さんに前住地と比較した富士市の住み心地を伺つてみます。

忠さん「夫婦とも生まれは県内で、富士山は珍しいというわけではありませんが、間近に見る富士山はやっぱりいいもんです」

幸子さん「道路が狭く、舗装がデコボコしているのが気になります。隣近所の人は親切で、人情味がありますね」

——富士市の感想を率直に

忠さん「夫婦とも生まれは県内で、

忠さん「夫婦とも生まれは県内で